

2009年フランス最新情報

1. 2009年の主なイベント
2. カルチャー、美術館、博物館
3. グルメ
4. ショッピング
5. その他の最新情報
6. 体験
 - 絵画体験
 - ユニークな体験
 - アウトドア
 - ガーデニング
 - ナイト・ツアー
 - スパ
 - ちょっと風変わりの宿泊施設
 - 暮らすように滞在するパリ

1. 2009年の主なイベント

プロヴァンス・リヴィエラ地方

ピカソとプロヴァンス・コート・ダジュール地方 2009

南仏の光と色と風景と穏やかな暮らしを愛したパブロ・ピカソは、1946年、南仏で絵筆を取るに到ります。

アヴィニョン、ヴォーヴナルグ、メネルブ、アンティープ・ジュアン・レ・パン、ヴァロリス・ゴルフ・ジュアンなどの村々が、このスペイン生まれの画家にインスピレーションを与え、数々の傑作が生まれました。彼は、またこの地で、陶芸を習い、ジョルジュ・ブラックやフェルナン・レジェ、ジャン・コクトー、アンリ・マティスらと親交を結びました。

プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方観光局とリヴィエラ・コート・ダジュール地方観光局では、プロヴァンス・コート・ダジュール地方時代のピカソの足跡を辿る観光コースを準備しました。

2008年と2009年の主なイベント・カレンダー

2008年7月19日：アンティープのピカソ美術館のリニューアル・オープン

2009年2月25日から2010年3月1日：ボー・ド・プロヴァンスの大聖堂でのピカソの映像スペクタクル

2009年3月28日から6月28日：アンティープのピカソ美術館にて特別展《ピカソ1945-1949：再生の時代》

2009年5月25日から9月27日：エクス・アン・プロヴァンスにて特別展《ピカソーセザンヌ》
国立美術館連合とエクス地方自治体、グラネ美術館共催

2009年5月27日から9月25日：ヴォーヴナルグ城の特別公開

2009年6月27日から10月12日：ヴァロリスの国立ピカソ美術館にてピカソとブレイズ・サンドラールの交友関係についての特別展。

詳しい情報は⇒ www.picassoenprovencecotedazur.com

ノルマンディー地方：

展覧会《収束 モン・サン・ミッシェル、アーティストの視線》 6月13日から11月8日

現代アーティストたち（画家18人、彫刻家6人、写真家2人）によるモン・サン・ミッシェルへの個人的アプローチを表現した作品展で、グランヴィルのリシャール・アナクレオン現代美術館にて開催。

詳しくは⇒www.monuments-nationaux.fr

ドーヴィルのアメリカ映画祭 2009年9月

今回で35回目となる映画祭には、数多くの映画スターや俳優、脚本家、監督の参加が予定されています。1日24時間映画が上映され、ドーヴィルはアメリカ色一色に染まります。ア

メリカ村では、イベントやデモンストレーション、コンサートなどが開催されます。
詳しくは⇒www.festival-deauville.com

ローヌ・アルプ地方

リヨンのフルヴィエールの夜祭り — 2009年6月中旬から9月中旬

リヨンのフルヴィエールの夜祭りでは、音楽や演劇、映画などの様々な分野のアーティストたちのパフォーマンスが上演されます。また、祭りの間、古代ローマ劇場がかつての息吹を取り戻し、大勢の毎年常連の観客たちがアーティストたちと一緒に魔法の一時を過ごします。

詳しくは⇒www.nuitsdefourviere.fr

シャモニーのガイド祭り 2009年8月15日

モンブランの麓で3日間にわたって繰り広げられる、伝統と近代の双方に根ざした祭りとして式典のイベントです。新しくシャモニー・ガイド協会に入会したガイドの紹介が行われ、またお客さんにもメダルが授与されます。ガイヤン岩壁で上演される感動的な光と音のスペクタクルでは、ガイド自らが書いたシナリオにそって山の歴史が語られます。

ロッククライミングやキャニオニング、スキー、氷河登攀、ヨーデルなど、盛りだくさんの催しが行われます。

詳しくは⇒www.fetedesguides.com

ヴィエンヌのジャズ・フェスティバル — 2009年6月27日から7月10日

数多くのコンサートが開かれるヴィエンヌの有名な古代劇場は魔法の場所です。ここで開催されるジャズ・フェスティバルは、ヨーロッパでも有数の規模を誇り、毎年、一流のジャズマンが参加します。

詳しくは⇒www.jazzavienne.com

エヴィアン・マスター、エヴィアン・レ・パン — 2009年7月23日から26日

世界最大のゴルフ大会です。

詳しくは⇒www.royalparcevien.com

アヌシー湖祭り — 2009年8月8日

毎年8月の第一土曜日(2009年は例外的に第二土曜日)には、アルビニー湾は、ヨーロッパでも最大規模の花火大会の会場となります。音楽とイルミネーションと特殊効果を伴った80分間の花火ショーは、一生に一度は見るべき魅惑のスペクタクルです。1860年にナポレオン三世が湖の上で行ったヴェネチア風の盛大なお祭りを起源に持つ花火大会ですが、毎年、一流の花火師が集まり、最新の花火技術を駆使して、感動の一時を演出します。

たった1度限りの壮大で驚きに満ちたこのショーで、毎年湖のほとりを埋める20万人の観客たちの興奮は最高潮に達します。

詳しくは⇒www.lac-annecy.com

リヨンのアート・ヴィエンナーレ展 — 2009年9月16日から2010年1月3日
10回目となる今回のテーマは《日常の光景》で、2009年9月16日から2010年1月3日までの開催です。
詳しくは⇒www.biennale-de-lyon.org

ボージョレー・ヌーボー — 2009年11月19日
ボージョレー・ヌーボー解禁
詳しくは⇒www.beaujolais.net

リヨン、光の祭り — 2009年12月8日
音楽を伴って、様々な建物がライトアップされる光のフェスティバルです。
詳しくは⇒www.lyon-france.com

ロレーヌ地方

クリスマス市 — 11月から12月

メッセとナンシーにて。暖かなオーバーとスカーフにくるまって、手袋も忘れずに、シナモン入りのホットワインで心まで温まりながら、家族や友人と一緒に、木造のシャレーを巡って宝探しをしましょう。まさにあなたが夢見た通りのクリスマスが、そこにあります。職人技、グルメ、プレゼントのアイデア、そして様々な催しが、ロレーヌ地方のあちこちで見つかるはず。探してみましょう。

メッツについての情報は⇒<http://tourisme.mairie-metz.fr>

ナンシーについての情報は⇒www.ot-nancy.fr

2009年 アール・ヌーボーのアーティストのための国際博覧会

《エミール・ガレ、自然と象徴主義—日本の影響》展 — 2009年5月5日から8月30日、ヴィック・シュール・セイルのジョルジュ・ラ・トゥール美術館にて。

この展覧会では、可能な限りガレのオリジナル・デッサンと作品を対比させながら、ガレと東洋日本の文化的交流にスポットを当てます。ロレーヌ地方はもちろんのこと、日本やアメリカから集まった75点のガラス作品のほか、40点あまりの陶器や、家具、デッサンなど約150点が展示されます。

光を中心にした展示にも工夫が凝らされており、これらの展示品は、日本的なものや、植物などの画家が愛した様々なものを私たちに教えてくれます。植物学を専門とする日本人の高島北海との出会いによって生まれた友情が、ガレの日本と自然への興味を象徴しています。

・《ガラスの秘密、あるいは、装飾ガラス》2009年4月12日から11月、メゼンタールのガラスとクリスタル博物館にて開催。アール・ヌーボー時代のガラス工芸技術に焦点を当て展覧会で、鋳造やパート・ド・ヴェール、絵付け、彫刻など細かく説明しています。

・《マジョレル、近代的な暮らしの中の美》 — 5月3日から8月30日
ギャラリー・ポワレルとナンシー派美術館にて。

ガラス製品で知られるガレとは異なり、マジョレルは木工品で知られています。今回の展覧会は、19世紀末から40年代の家具に到るまでのマジョレルのスタイルの変遷を分かりやすくみせてくれます。150点あまりの展示作品の多くが今まで門外不出だった作品で、ナンシー派美術館の所蔵作品はもとより、フランス内外の公立美術館や個人所有の作品が集まります。

詳しくは⇒www.tourism-lorraine.com

世界気球大会、シャンブリー — 7月24日から8月2日（第11回大会）

ナンシーとメッスの間にあるシャンブリーで2年ごとに開催される世界気球大会は、世界の約70の国々から、1000個の気球と1000人の気球乗りが参加する世界最大の熱気球の大会です。飛行体験や、飛行デモンストレーション、編隊飛行、凧揚げ、ミニ熱気球、お菓子や有名人の顔の形をした気球、夜間飛行など様々なプログラムが一般観客用に用意されています。

詳しくは⇒www.pilat-re-de-rozier.com

ロワール地方

ナント河口祭り — 6月6日から8月23日

フランス最長の河川であるロワール川はナントからサン・ナゼールまでの広大な河口を経て、海に注いでいます。神秘的な野生の自然と、産業と港湾活動の繁栄の歴史、絶え間ない治水によってできた驚異の風景が、そこにあります。

2009年6月6日から8月23日までの間、ナントとサン・ナゼールと、その2つの都市を結ぶ60kmの川岸に、世界各地から集まったアーティストによる30点あまりの作品からなる芸術の小道が作られます。毎年行われるこの催しでは、何点かの作品がそのまま永久展示され、年間を通じて見学者に公開されています。

詳しくは⇒www.estuaire.info

マシーンの島、ナント

マシーンの島は、フランソワ・ドラロジエールとピエール・オルフィスのイマジネーションから生まれた前代未聞の芸術プロジェクトです。かつての造船所の中にあり、ジュール・ヴェルヌの小説の世界と、レオナルド・ダ・ヴィンチの機械仕掛けの世界と、ナントの製造業の歴史が交差する十字路とも言えるでしょう。

詳しくは⇒www.nantes-tourisme.comと www.lesmachines-nantes.fr

サントル地方

シャンボール城でヴェルディ、オペラ — 9月19日

シャンボール城で、初めて、人気の高いヴェルディのオペラ《リゴレット》が上演されます。《リゴレット》は、《椿姫》《トロヴァトーレ》と並び、三大人気オペラの1つで、9月19日に、シャンボール城の正面をバックに野外で演じられます。演出はフランス・ペラン、指揮者はメラニー・ティエボーです。

詳しくは⇒www.akouna.com

フランス全土

文化遺産の日 — 2009年9月19日と20日

26回目となる今年の文化遺産の日のテーマは、《みんなの文化遺産》です。この日は、美術館や博物館などの文化施設の入場が無料となるほか、普段は公開されていない一部の施設が、この週末だけ一般公開されます。2008年には、1200万人が、15,168ヶ所の施設を訪れました。

パリ

エッフェル塔120周年

1889年の3月、エッフェル塔の竣工を記念して、設計者ギュスターヴ・エッフェル自身の手による21発の礼砲が鳴り響きました。2009年、エッフェル塔の新会社は、竣工と、それに続く同年5月の一般公開から120周年となるのを記念して、数々のイベントを予定しています。

2009年5月に始まる120周年記念行事の皮切りとなるのは、パリでもっとも観光客が訪れる名所のひとつであるエッフェル塔の歴史をたどる展覧会です。また、イル・ド・フランス地方の120の学級が招待され、120本のロウソクを吹き消し、お祭り気分一杯の塔を見学します。9月には、世界各地から30の塔の代表者が訪れ、この鉄の女王に敬意を表することになっています。もちろん、エッフェル塔の記念日ですから、イルミネーションは欠かせません。従来の点滅ライトはそのまま行われますが、2009年の夏には、さらなる驚きが、パリっ子と観光客を待ち構えています。

ココ・シャネル・ムービー

ココ・シャネルについての2本の映画が上映されます。

《シャネル以前のココ》主演オドレイ・トトゥ、監督アンヌ・フォンテーヌ、4月22日公開
《ココとイゴール》主演アンナ・ムグラリ、監督ヤン・クーネン、ガブリエル・シャネルとストラヴィンスキーの情熱的な出会いを描いた作品で、3月から5月にかけて公開予定。

2. カルチャー、美術館、博物館

プロヴァンス地方

マルセイユ、2013年ヨーロッパ文化首都

マルセイユ市は、経済と文化を共に発展させるためのアプローチを提唱しています。プログラムは、ヨーロッパ地中海都市としてのマルセイユの使命を重視するプロジェクトである《ヨーロッパ地中海のアトリエ》に基づいています。

フランスでは、すでに多くの都市がヨーロッパ文化首都に指定されており、例えば1989年はパリ、2000年はアヴィニョン、2004年にはリールが選ばれています。

詳しくは⇒<http://www.marseille-provence2013.fr>

コート・ダ・ジュール地方

画家たちのコート・ダ・ジュール

1) 偉大な画家たちの足跡を辿って：偉大な画家たちが描いた風景を紹介する80の案内板を回るコースです。コート・ダ・ジュールはもともと芸術と深く結びついた土地柄で、その輝くばかりの光と、静かで穏やかな風土と暮らしを心から愛した芸術家たちによって数々の名画の中に描かれてきました。

こうしたことから、アルプ・マリタイム県各地の観光局では、偉大な画家たちが描いた風景を訪れる《画家たちのコート・ダジュール》という観光ルートを作りました。クロード・モネ、レイモン・ペイネ、ピエール・オーギュスト・ルノワール、シャイム・スーティン、ラウル・デュフィ、ピエール・ボナール、マルク・シャガール、ジャン・コクトー、パブロ・ピカソなどの画家たちがイーゼルを置いた場所、80ヶ所に案内版を設置されています。この案内版を辿ることで、アンティープ・ジュア・レ・パン、カーニュー・シュール・メール、グラス、ル・カネ、サン・ポール・ド・ヴァンス、ヴィルフランシュ・シュール・メール、マントン、ムージャン、ヴィルヌーヴ・ルーベ、カンヌでの画家たちの足跡を知ることが出来ます。近日中には、ヴァンスやニースにも案内版が設置される予定です。

2) マティス・コース

マティスは、長年コート・ダジュールに滞在し作品を描きました。彼の足跡は、特にニースやヴァンスに残されています。

ヴァンス：ロゼール礼拝堂、アンリ・マティスの傑作

ヴァンス：アンリ・マティスが1943年から1949年までの間住んだ夢の別荘

ニース：マティス美術館

3) コクトーとコート・ダジュール・コース

コクトーは、長い間コート・ダジュールに住んでいました。彼の多くの作品が公共の場に展示されています。

サン・ジャン・キャップ・フェラ：サント・ソスピール荘（近日中に少人数の団体に限り公開予定）

ヴィルフランシュ・シュール・メール：サン・ピエール礼拝堂（一般公開）

マントン：市役所の婚礼の間

マントン：バスチオン美術館

キャップ・デル：劇場

4) コート・ダジュールのアール・デコと建築コース

コート・ダジュールには、近代アートと歴史にその足跡を刻んだ偉大な人物の隠された遺産があります。

ログブラン・キャップ・マタン：ル・コルビジエが、1952年に、地中海沿いに別荘を作りました。

近代現代アートを展示するマールグ財団

グルドン城：グラス近郊の鷹の巣村に、リュルマンやデュナン、シャロー、マレ・ステヴァン、グレーなどの一流のアーティストが作ったアール・デコ様式の家具の素晴らしいコレクションがあります。

2008年には以下の美術館がリニューアル・オープンしました。

ビオット：フェルナン・レジェ美術館（2008年6月）

アンティープ：ピカソ美術館（2008年7月）

グラス：国際香水博物館（2008年10月18日）

詳しくは⇒ www.guidriviera.com

ノルマンディー地方

ジヴェルニーの印象派美術館オープン — 2009年春

2009年春、現在のジヴェルニー・アメリカ美術館に代わって、印象派運動の国際的な性格にスポットを当てた美術館がオープンします。

パリとルーアンの間に位置するジヴェルニーは、印象派をテーマにした旅には欠かせない場所です。モネの庭では、2009年5月1日から8月15日までの間、風景の発明と題した記念展覧会が開催されます。クロード・モネが、どのように庭園を設計して、彼の心のうちのあるものを最大限に投影させようとしたかを、彼の絵を通じて理解しようとする展覧会です。

詳しくは⇒ <http://www.maag.org>

ローヌ・アルプ地方

ガダーニュ博物館リニューアル・オープン（リヨン） — 2009年6月

ルネッサンス様式の建物を改修してのリニューアル・オープンです。

ガダーニュ博物館は、リヨンの歴史博物館と世界マリオネット博物館を1つにして作られ、ユネスコの世界遺産に登録されているリヨンの旧市街の中にあります。市内にあるルネッサンス様式の建築群を代表する建物です。

2009年6月のリニューアル・オープン後には、展示面積が二倍となり、最新の展示方法を用いた39の展示室と、2つのアトリエ、講堂、資料室、空中庭園、カフェ、売店が完備されます。

詳しくは⇒ www.museegadagne.com

シャンパーニュ地方

《ルノワールの方へ》(エッソワ) - 2009-2010

印象派を代表する画家の1人、ピエール・オーギュスト・ルノワールは、何年もの間、エッソワの家に住んでいました。彼は、このブドウ畑に囲まれたこの地を愛し、多くの作品に描いています。アトリエを訪れば、彼の私物のコレクションが、彼と彼の友人たちの思い出を語ってくれます。

2007年、エッソワ村は、《ルノワールの方へ》と名づけた文化観光プロジェクトを開始しました。画家とその家族、そして彼の作品、とりわけ彫刻制作に対しエッソワ村が果たした役割を再発見する企画です。4つの標識が整備されたハイキングコースを辿れば、ルノワールの世界をさらによく理解できるでしょう。

アトリエと庭園は、2009年6月に一般公開されます。エスパス・ルノワールは、2010年オープン予定です。

プレス担当：Karine Rémy - メールアドレス: association.renoir@wanadoo.fr

ロレーヌ地方

メッスのポンピドゥー・センター、オープン - 2010年春

メッスのポンピドゥー・センターは、TGV駅近くのメッス市の中心街に沿ったアンフィテートル地区に作られ、都市設計の専門家ニコラ・ミシュランが中心となって行っている野心的な都市再整備プロジェクトの目玉です。建物の設計は、坂茂とジャン・ド・ガステイヌが手がけ、多くの展示室のほか、見学者受付スペースや、様々な催しが行われる創作スタジオ、講堂、本屋、カフェテリアなどがあります。

今後の企画や展示される作品の選択は、パリのポンピドゥー・センターとの緊密な協力関係のもとで行われ、主に、ヨーロッパ最大の近代現代アートのコレクションを擁する国立近代現代美術館 (Mnam) 所蔵の作品を展示することになります。展示作品は定期的に入れ替わります。

詳しくは⇒<http://www.centrepompidou-metz.fr>

ノルマンディー地方

ノルマンディー印象派フェスティバル - 2010年

2010年6月から9月に開催されるノルマンディー印象派フェスティバルは、ノルマンディー地方にとって一大文化イベントです。19世紀最大の芸術潮流である印象派発祥の地であるノルマンディーを訪れる良い機会となることでしょう。

ルーアン美術館では、世界各国からモネ、ゴーギャン、ピカソなどの印象派の偉大な画家たちの傑作を集めて展示する展覧会が開かれます。この展覧会は、フェスティバル最大の呼び物ですが、その他にも、ノルマンディー地方全域の印象派ゆかりの各地(ル・アーブル、カーン、オンフルール、ディエップ、シェルブール、エヴルー、ジヴェルニーなど)で、音楽やダンス、演劇、写真、ビデオ、建築、ショーなど、様々なスタイルの催しが行われます。

3. グルメ

フランス全土

ミシュラン・ガイド、フランス版、第100号出版 — 2009年3月22日

ミシュラン・ガイドの1世紀の歴史を祝うため、ミシュラン・ガイドのフランス版は最新技術を導入して若返りをはかり、2009年のグルメ・ガイドをiPhone上で発信します。これにより、ユーザーは、オンラインでレストランを探したり予約したりできるようになり、さらに食事のあとにコメントを載せることもできるようになります。

フランス国内には、3つ星レストラン26軒（うち1軒が新規獲得）、2つ星レストラン73軒（うち9軒が新規獲得）、1つ星レストラン449軒（うち63軒が新規獲得）の合計548軒の星付きレストランがあります。

ル・ブリストルは、今回星を1つ追加して3つ星となりました。シェフのエリック・フレションが率いるル・ブリストルは、大統領府のすぐ近くにあり、2009年版の話題の一つです。今回新たに2つ星を獲得したのは、リヨンのラ・メール・ブラジエのマチュー・ヴィアネーや、ヴェルサイユのル・トリアノンを引き継いだイギリス人シェフのゴードン・ラムゼイなど、9軒のレストランです。

またミシュラン・ガイドは例年に引き続いて今回も有機栽培の食材を使うレストランに星を与え、アルルの2つのレストラン、すなわちジャン・リュック・ラバネルが2つ星、ラ・シヤニエットのアルマン・アルナルが1つ星を、それぞれ獲得しました。

パリ

アラン・デュカス料理学校、パリの中心にオープン

アラン・デュカスの料理学校が、16区というパリの中心にオープンしました。デザイナーのイヴ・ロションが全面的に修復と内装を手がけたラヌラ通りの施設には、3つの台所と、試飲用のワイン・セラーと、ブティックがあります。この学校は、アラン・デュカスと彼のシェフたちの情熱と技術を、世界中の料理愛好家に伝えることを目的としています。

初心者向けと経験者向けの2つのコースがあります。

詳しくは⇒www.atelier-gastronomique.com

ローヌ・アルプ地方

ボージョレー・ワイン街道

2009年中に、ボージョレーのワイン畑を巡るワイン観光街道が作られます。フランスの他のワイン産地と同様に、ボージョレーにも、車やバスや自転車で観光できるワイン街道が誕生します。インターネット・サイトはまだありません。

レスキス、分子ガストロノミー、リヨン

新しい実験的料理法に心酔する若きシェフ、サミュエル・デジョベールは、最近ミシュラン・ガイドで新たに星を獲得した2つのレストランでピエール・ラウールのスー・シェフとして修業を積み、2008年6月に、自身のレストランを開業しました。レストランの厨房では、分子ガストロノミーの秘密を会得したサミュエル・デジョベールが、高級フランス料理と化

学式に取り組んでいます。季節によって代わるメニューは、新鮮な素材を使った革新的でオリジナルでバラエティー豊かな高級フランス料理です。この新しい料理法は、前衛的な調理技術を駆使して、新たな味覚と食感を作り出しています。食材は常識破りで、液体窒素を使った調理や、食物の乳化、気化した砂糖などなど。料理は独創性が勝負で、出来上がりは、まるで芸術作品のようです。目にも、舌にも嬉しい料理の数々が、古民家と近代的な色彩が調和したわずか35卓のこぢんまりとした店内で供されます。

詳しくは⇒www.eskis-restaurant.com

エスパス・ニコラ・ルベック、リヨン・サンテグジュペリー空港

ミシュランの星付きシェフであるニコラ・ルベックが、リヨン・サンテグジュペリー空港の4階に、レストラン、バー、ラウンジ、カクテル・パーティーやセミナー用に壁が稼動する個室からなるスペースをオープンさせました。

詳しくは⇒www.nicolaslebec.com

スクック：料理学校、ヴァランス

女性でただ1人ミシュランの3つ星を獲得したシェフであるアンヌ・ソフィー・ピックが、2008年4月に料理学校を開校しました。

詳しくは⇒www.scook.fr

アキテーヌ地方

ボルドーのワイン祭り — 2010年6月24日から27日

ボルドー市主催で開かれるお祭りで、ワインと料理とお祭りと文化が好きな人々が、ガロンヌ川の岸边から2km、ユネスコの世界遺産に登録されている場所で、楽しい喜びの一時を共有します。2008年、ボルドーのワイン祭りには、4日間で、45万人が集まりました。

詳しくは⇒www.bordeaux-fete-le-vin.com

4. ショッピング

ショッピングに関連したイベントが2つあります。

コート・ダジュール地方

カンヌのショッピング・フェスティバル

1月、カンヌは、ショッピング・フェスティバルのおかげでファッションの都となります。ファッションショーや、ジュエリーとオートクチュールを結びつけたプレスティージュ・ナイトなどのファッション関係のイベントが多数開かれ、魅惑のクロワゼット大通りも、高級ブティックも、ファッション好きをクリエーターたちの選りすぐりのコレクションの魅力の虜にさせることに情熱を注ぐ団体《カンヌ・プレスティージュ》を中心に一丸となります。

詳しくは⇒www.canneshoppingfestival.com/

パリ

ソルド・バイ・パリ

1月、パリのバーゲンが公式に始まります。パリは、ソルド・バイ・パリのバーゲン色一色に染まります。これは、ショッピングと文化をあわせたプログラムで、冬のバーゲンの時期に、パリを発見、あるいは再発見するために欠かせないイベントです。

詳しくは⇒www.shoppingbyparis.com/

5. その他の最新情報

ローヌ・アルプ地方

エギーユ・デュ・ミディ駅の改修、シャモニー・モンブラン

エギーユ・デュ・ミディ駅の工事は、2007年秋に始まりました。もともとの駅の中心部は保存されますが、最近建てられた部分は取り壊されます。

地元の天然素材を主に使って建てられる2000㎡の新しい建物には、モンブラン会社の施設のほか、約300㎡のバーと売店スペースが作られます。設計は、ジャン・ミッシェル・ウィルモット、工事は2009年3月に終了予定で、総工費450億ユーロ。

詳しくは⇒www.chamonix.com と www.compagniedumontblanc.fr

プランブラのロープウェイ、シャモニー・モンブラン

モンブラン会社では、2005年に、シャモニー溪谷の南の斜面（ブレヴァン・フレジュール）の設備の大々的な改修工事を開始しました。プランブラのロープウェイは、その要となります。大きなガラス窓を備えたパノラマ・ロープウェイは、四季折々の観光客のニーズに応えることができるでしょう。夏は8つの座席を備えて快適に、冬は座席を取りはずして10人収容で効率を良くし、1時間に3000人を運びます（以前は1350人でした）。

詳しくは⇒www.chamonix.com と www.compagniedumontblanc.fr

ノルマンディー地方

記録的な大きさのルーアンの橋

昇開する橋桁の長さ120メートル、高さ86メートル、橋桁の有効高さ55mの昇開橋が、セーナ川の上にそびえます。ルーアンのギュスターヴ・フローベル橋は、ヨーロッパでもっとも高い可動式の橋であり、世界最長です。

ルーアン市内でセーナ川にかかる6番目の橋で、エメリー・ズブレナ（スタット・ド・フランス）とミシェル・ヴィルロジュー（ノルマンディー橋、ミヨー高架橋）が設計しました。長さ120mの昇開部分はそれぞれが1300トンの重さがありますが、わずか12分で上がり、ヨットの大船団が通る時や、大型客船がギヨーム・ル・コンケラン橋に接岸する時など、年に30回ほど昇開します。2004年6月に着工し、2004年9月から、高速道路A150号線（バラントン／ディエップ方面）とノルマンディーの高速道路に続くバイパス道路を繋いでいます。

詳しくは⇒www.rouentourisme.com

6. 体験

< 絵画体験 >

ノルマンディー地方

ルーアンでの絵画教室

観光局では、絵画教室を開催しています。但し事前予約が必要です。クロード・モネが絵を描いたそのアトリエで、あなたも、あなた自身のやり方で、大聖堂の連作に描かれたようなアート史の一瞬を表現してみましょう。

詳しくは⇒www.rouentourisme.com

サントル・ロワール地方

クロ・リュセ城で絵画教室

レオナルド・ダ・ヴィンチが自分の技法を教えたクロ・リュセ城（アンボワーズ）で、世界的に有名な画家のニコル・カプランが、ダ・ヴィンチの教え方から着想を得て、美術愛好家（子供と大人）に、デッサンやパステル画、アクリル画、水彩画などの絵画テクニックを教えてください。《レオナルドのアトリエ》と題された1日の講習会では、伝統と近代が一つになったこの館の見学を通じて、ニコル・カプランの絵画技法を学べます。講習会、4月から9月まで間、月に数回開催されます。グループ・レッスンですが、作品制作はあくまで個人の自由な発想で行うことが出来、自分に合ったレベルとリズムで学ぶことが出来ます。レッスン参加後、3日から5日間の講習に参加してさらに腕を磨くことも出来ますし、今年からクロ・リュセ城の庭園内の風景や植物をテーマにした水彩画や実際にモデルを使った講習も始まります。

詳しくは⇒www.vinci-closluce.com と <http://nicole.caplain.free.fr>

<ユニークな体験>

ローヌ・アルプ地方

リヨンにアイ・ウェイ I-WAYがオープン

モータースポーツの興奮と醍醐味を手軽かつ安全に楽しめ、環境にも配慮したアトラクション施設<アイ・ウェイI-WAY>がリヨン市西部の9区にオープンしました。

世界でも他に例を見ないこの施設のメインアトラクションは18台のハイエンドな3Dダイナミック・レーシングシミュレータ。実車大のマシンの空力特性と、前後左右に路面のアップダウンを加えた6方向のマシン挙動を忠実に再現し、最大で<2G>を体感できる最新鋭機により従来にないセンセーショナルなドライビング感覚が楽しめます。

マシンのカテゴリーは3種類で、F1、耐久レースのスポーツカー、ラリーの各6台があり、ラリータイプではレースモードのほか観光ドライブモードがあり、エコドライブや安全運転にトライすることもできます。もちろんタイムやランキングも表示されます。

通常設定されているのは40分から60分のセッションで、各セッションはドライバーミーティング、練習走行/予選、及びレースで構成されています。アイ・ウェイI-WAYと従来のサーキットでの実走行体験との大きな違いはこのレース参戦の再現にあり、単にレーシングマシンのステアリングを握るだけでは得られない、スターティング・グリッドや抜きつ抜かれつのレース体験を興奮とともに味わえることにあるのです。F1で3コース、耐久で3コース、ラリーで3コースを走行でき、コース路面によって異なるフィーリングを体感でき、走行を終えると各ドライバーが時間内に走った総距離のデータが個別にセーブされます。1年の終わりの週末には、各カテゴリーでベストスコアを記録したドライバーたちが高級車のキーを賭けてファイナルレースに挑みます。アイ・ウェイI-WAYはモータースポーツファンにとってまさに革命といえる新たな施設です。

アイ・ウェイI-WAYの3階建て5,000㎡の施設はレーシングシミュレータのほか、貸し切りに対応したスポーツルームと男女別2つのスパとサウナ、ノンアルコールバー、テラスに囲まれたバーラウンジ、40席のカンファレンスルーム2室、ブティックなども設けており、今後、企業イベント会場としての利用も大いに見込んでいます。現代的でハイグレードなアンビエントが忘れ難い時間を演出するでしょう。

アキテーヌ地方

空から見た城

ドルドーニュ溪谷の城、ベナック、カステルノー、レ・ミランダ、モンフォールや、曲がりくねる川、生い茂る森、村、川岸を空から眺めましょう。プロのパイロットと一緒に15分間の飛行は、この特別バカンス・プランの一部です。

プランには、5ヶ所の観光スポットの入場料も含まれます(リストは、ご希望に応じてお送りします)。宿泊は2食(朝食と一泊目と二泊目の夕食、飲み物は含まず)付きで、ランチタイムはフリーです。

詳しくは⇒www.tourisme-aquitaine.com

サントル地方 (市内観光)

ブロワ：馬車に乗って観光

ロワール地方の中心にあり、ソローニュ地方へ向かう玄関口にあたるブロワには、賑やかな通りや石畳の広場、レストラン、居酒屋などがたくさんあります。文字通り市内にそびえるブロワ城は、ルイ12世とフランソワ1世の住居でした。城の前には、ペルシュロン地方原産の馬が引く小型の四輪馬車が、この王都の歴史に興味を抱く観光客を待っていて、旧市街や川岸を案内してくれます。

詳しくは⇒www.bloispaysdechambord.com

ブルジュ：秘密の見学ツアー

ブルジュは、現在では、賑やかな歩行者天国や、木組みの家や、春の庭園で、人気のある町です。ユネスコの世界遺産に登録されているサン・テチエンヌ大聖堂とシャルル7世の大蔵卿の栄華のシンボルであるジャック・クール宮殿など、中世都市ブルジュには多くの見どころがあります。観光局では、秘密の見学ツアーをご用意しました。芝居仕立てのガイド付き見学ツアーで、内容は盛りだくさん。想像力をかき立てられる、楽しく、夢のような一時です。町の歴史や、歴史上の有名人の物語が、町中のあちこちで蘇ります。例えば。ジョルジュ・サンドが、友人で弁護士のミシェル・ド・ブルジュと結んだ親しい関係の秘密が明らかになったり、錬金術師たちが心捕らわれた秘密、すなわち聖杯を求めて、町の奥深くへと潜ったり。こうして数キロの距離をさまよったあとは、歴史にかかわって賑やかなお祭りを楽しめます。

詳しくは⇒www.bourges-tourisme.com

<アウトドア>

ローヌ・アルプ地方

モンブラン、標高4810mのヨーロッパの屋根

フランス最大の氷河、メール・ド・グラスでユニークな体験をしましょう。美しい風景を眺めながらアプト式のモンタヴェール鉄道に乗って、氷河に彫られた洞窟と水晶のギャラリーを見学します。

ヨーロッパでもっとも高いロープウェイに乗ってエギーユ・ド・ミディへと向かう目も眩むエクスカッションでは、モンブラン山系の壮大な眺めが見られます。標高3842m以上、モンブラン山系の360度のパノラマは、あなたにとって、夢のような貴重な一時となることでしょう。

詳しくは⇒www.chamonix.com と www.compagniedumontblanc.fr

ロレーヌ地方

ミラベル・コース

春、ミラベル・コースを歩けば、スモモの一種であるミラベルの白い花で覆われたコード・ド・ムーズのそれはそれは美しい風景を眺めることができます。

コート・ド・ミーズを巡る全長77kmのミラベル・コースは、馬やマウンテン・バイクでも観光することができます。

ムーズ渓谷にそびえるアトンシャテルの中世の城を訪れたり、ブドウ畑や牧場を横切ったり、ワイナリーを見学したり、オー・ド・ムーズの森やゲニクール・シュール・ムーズの石灰岩の草原を探検したり、ヴァーヴル平原の見事な風景を眺めたりしましょう。

注：世界のミラベルの80%がロレーヌ地方で生産されています。

詳しくは⇒www.tourisme-lorraine.fr

<ガーデニング>

ロレーヌ地方

ロレーヌ地方の庭園見学

ロレーヌ地方では、歴史的な建物や個人の住宅に付随する100カ所の庭園が毎年一般に公開されており、そのうち10ヶ所あまりは、《美しい庭園》に指定されています。教育目的の見学、バードウォッチング、展覧会、講演会、交流会、コンサートなど、3月から10月にかけて、様々なテーマの催しが開催され、楽しみながら、素晴らしい自然空間を発見できるようになっています。

国境を越えたネットワークの《境界のない庭園》は、見学者に公開されている24の庭園が集まる組織ですが、そのうち5つの庭園がモゼール県に、16がサール県に、2つがルクセンブルグにあります。このネットワークは、1998年に、モゼール県とサール県の県を越え協力政策によって生まれ、庭園のすべては、フランスの内外で有名な一流の造園家によって設計されたり、設計しなされたものです。ネットワークに属する庭園は、それぞれに明確なテーマが決められています。例えば、感覚の庭、バロック庭園、古代ローマ庭園、平和庭園など。2009年には、新しくネットワークに属する庭園の1つがオゼール県で一般公開されます。サールグミンの陶磁器の庭園で、ムーラン・ド・ラ・ブリにあります。

カリュン庭園：1993年に広大な山の風景を見下ろすかつての採石場跡に作られた3haの公園で、造園家のジャック・クチュリウーが設計しました。彼は、ツツジ、アゼリア、多年草、ボタンや250種類のエリカを含む酸性の土壌に生える植物を豊かに配した庭園を造りました。お勧めは、春で、何十種類ものツツジが色とりどりに咲く様子をぜひご見学ください。詳しくは⇒www.tourisme-lorraine.fr

サントル地方

シヨモン・シュール・ロワール国際ガーデニング・フェスティバル

ー 2009年4月29日から10月18日

新しい世代の造園家や建築家、演出家、園芸家たちの仕事を知るために欠かせない催しです。26の庭園が、毎年リニューアルされ、世界の造園の今を知るための一大パノラマを形成します。2009年のテーマは、《色の庭》です。植物のパレットが、数限りない様々な色と、色の組み合わせを生み出し、その効能とエネルギーが、私たちの感覚と精神に作用を及ぼします。審査員長は、世界でもっとも偉大な色の専門家として知られるミシェル・パストゥローが務めます。

2009年の新企画として、発光ダイオードの薄明かりの中で、フェスティバルに参加している庭園の夜間見学が行われます。

詳しくは⇒www.domaine-chaumont.fr

<ナイト・ツアー>

サントル地方 (城の夜間見学とナイトスペクタクル)

シュノンソー城：城の夜間見学と夜のスペクタクル

夏の週末には、夜、ロマンチックな雰囲気の中での散策が楽しめます。6月になると、城や公園、庭園がライトアップされ、建物と自然の調和がさらに際立って見えます。ファサードに投影されるイメージに加え、ディアンヌ・ド・ポワチエの庭の前にある管財人の家の建物に新しい演出が施されます。この城の歴史を作ってきた有名な貴婦人たちと出会えるかもしれません。

詳しくは⇒www.chenonceau.com

アンボワーズ城：ナイト・スペクタクル — 2009年7月3日から8月21日

ルネッサンス期の王家の住居だったアンボワーズ城は、王家の子供たちが生まれ育った場所で、シャルル8世やフランソワ1世、アンリ2世とカトリーヌ・ド・メディシスの子供たちが、伝染病や政争を逃れて、この城に滞在しました。見事にライトアップされたテラスにはビデオプロジェクターが備え付けられ、幼い王子や王女たちの叫び声や遊ぶ声が響き渡ります。

声と光と音楽と映像が一つになったユキジュン製作のオリジナル・スペクタクルです。

詳しくは⇒www.chateau-amboise.com

アゼ・ル・リドー城の夜のスペクタクル — 2009年7月1日から8月31日

日暮れと同時に、清らかな声が聞こえ、かすかなざわめきと歌声が広がり、閃光と映像が城と庭園を満たします。光と音のスペクタクルは、実際の動植物と想像上の動植物が、石と森の中に溶け込む夢の世界へと、あなたを誘います。城と公園は、戯れる光と映像と水の渦巻きと化します。

詳しくは⇒www.monum.fr

シャンボール城のナイト・スペクタクル — 2009年7月1日から9月13日

2008年から、国立シャンボール公園では、毎晩、新しいナイト・スペクタクル《シャンボール、夢と光》を上演しています。城の有名な北側のファサードへ投影されるスペクタクルは、見る者をルネッサンスの時代へとタイムスリップさせます。

詳しくは⇒www.chambord.org

ヴィランドリー城の花火の夕べ — 2009年7月3日と4日

ヴィランドリー城の庭の散策を楽しむための独創的な詩的なイベントです。午後8時、庭園は、2000本のロウソクで照らされ、優雅で夢のような雰囲気に包まれます。そして午後23時には、水辺で花火が打ち上げられます。

詳しくは⇒www.chateauvillandry.com

サントル地方 (市内夜間観光)

光のシャルトル — 2009年4月18日から9月19日

シャルトルでは、市内で最も美しい建物20ヶ所あまりで光と音のショーが繰り広げられ、町全体が、詩情溢れる楽しいスペクタクルの舞台と化します。最大の見ものは、カラフルに彩られた大聖堂の王の扉です。町全体がフレスコ画となるこのイベントの締めくくりが《光のフェスティバル》で、新しくライトアップの対象となる建物の紹介や、コンサート、大道芸などの催しが行われます。

詳しくは⇒www.chartres-tourisme.com と www.chartresenlumieres.com

ブルジュの光の夕べ — 2009年5月から9月

光の夕べは、歴史遺産と光と音と最新技術を組み合わせた夜のブルジュ散策コースです。

詳しくは⇒www.ville-bourges.fr/tourisme

トゥールの夜間観光

数多くの文化イベントが行われる芸術と歴史の町トゥールは、フランス流の生活の楽しみ方を象徴する魅力に溢れる町です。大胆なプロジェクト《光のプラン》では、市内の建物をライトアップで飾り、トゥールのナイト・ライフをさらに楽しいものしてくれます。

詳しくは⇒www.ligeris.com

<スパ>

パリ

ラ・ビュル・ケンゾー

ポン・ヌイーイ近くにあるケンゾー・ブランドのサロンです。未来志向のハイテクな雰囲気の中で、エステとリラクゼーションの一時を。

詳しくは⇒www.labullekenzo.com

ヴェルサイユのスパ・コーダリー

パリ地方のアヴレーに作られた新しいスパ・コーダリー・レ・ゼタン・ド・コロ。ヴィノセラピーから生まれたコーダリー・ブランドのスペシャル・トリートメントで、思いっきりリラックスしてみましょう。

魅惑の町パリの入口、パリから15分のところに誕生したヴィノセラピーのスパ・コーダリーは、ブドウを使ったエステがお好きな人々を、都心に近いとはとても思えないほど素晴らしい環境の中にお迎えします。ホテルのフロントを通り過ぎると、そこは700㎡の広さを持つ新しいスパ。この有名なヴィノセラピーのスパは、自然に囲まれ、沼地を見晴らす田園風景の中という恵まれた環境にあります。

詳しくは⇒www.etangsdecorot.com

ノルマンディー地方

ル・アーブルのドック内にあるジャン・ヌーベル設計のスパ

かつてコーヒー倉庫のあったレユニオン島埠頭にある新しいスパ・センターで、2008年にプリツカー賞を受賞したジャン・ヌーベルが設計し、7月18日にオープンしました。非常にシンプルな建物で、チャコールグレーのコンクリートのファサードに、ブドウ模様の七宝が施されています。ローマ風呂から着想を得て設計され、5000㎡以上の広さを持つスパは、次のような2つのコンセプトに基づいています。すなわち、天井、壁、床を覆い尽くすモザイクと、これらのモザイクが基本の幾何学を描く細かい縦糸。浴槽は、大きな塊の中に彫られた天然のプールを思わせる設計で、それぞれに、水温や、子供向けおもちゃ、天井や水中に向けられた光など、異なるテーマと形を持っています。同様に、プレイ・ルームや温泉療法のプールも、ケアの必要性に応じて設計されています。サウナやハمام、冷水プール、温水プール、個人向けや団体用のスパなども揃っています。

詳しくは⇒www.lesbainsdesdocks.com

<ちょっと風変わりな宿泊施設>

ローヌ・アルプ地方

鳥の巣村（アルデーシュ県）

アルデーシュ県に作られた初めての鳥の巣村です。今年4月からロビンソン・クルーソーのように地上何メートルもの高さの木の上に作られた小屋に泊まることができるようになります。これはボーフル在住の観光の専門家であるジャン・リュック・ブロットのアイデアであり、彼は、現在、サン・ジュリアン・ラ・ブルースの樹上レジャー公園の再開に取り組んでいます。県内最大規模のプロジェクトです。

詳しくは⇒www.cabanes-ardeche.com

ノルマンディー地方

《農家に泊まろう》

新しいエコ・ツーリズムのコンセプトで、農家で過ごすバカンスです。

カルヴァドス県のルヴィエールにあるラ・フォリヴレは、フランスで最初に《農家に泊まろう》ネットワークに選ばれた農家です。バカンス客は、広くて快適なテントの中で過ごします。自分たちの土地と職業を愛する農家の人々が、バカンス客を迎え、彼らが住む環境の美しさとそこに住む喜びを教えてください。このコンセプトのおかげで、本物の素朴な環境の中に完全に溶け込んで滞在することができます。互いに尊重しあうことで、子供だけでなく、親も、いつもとは違った日常を発見し、多くのことを学びます。ここには、電気もありません。素朴な生活、本当の価値への回帰こそが、贅沢なのです。ロウソクの光と薪ストーブ暖かさの中で暮らす喜び、薪で料理する喜び、自転車での散策、鶏の卵、囲いの中の家畜と、ここでは楽しみは尽きません。テントは、それぞれ、楽しいな古道具で田舎風に飾られています。

詳しくは⇒www.unlitaupre.fr

ロレーヌ地方

ムジュモテル：バブル・ハウスに泊まる

ヴォージュ地方のプレーン川の両腕に囲まれた4200㎡の島にある未来風の建物が、一握りの愛好家の手によって、2007年に修復されました。それが、バブル・ハウス、泡の家です。ムジュモテルのラン・レタップにあるバブル・ハウスは、寝室と浴室からなる居心地の良い家です。内装は細部に到るまで手が込んでいて、時代ごとの芸術潮流をテーマにしています。例えば《ポップ・アート》や、《フィフティーズ》などの部屋があります。

1967年に建築家のパスカル・オーセルマンが設計した建物で、20世紀の建物の指定を受ける予定です。最近では、有名なガイド・ブック《ヨーロッパのホテル100選》で紹介されました。非日常体験ができること間違いなしです。

詳しくは⇒www.museumotel.com

<暮らすように滞在するパリ>

ミーティング・ザ・フレンチ

《ミーティング・ザ・フレンチ》なら、本物のパリの素顔を発見できます。民宿を選んだり、ガイド付きの市内観光を探したり、パリの名を世界に知らせた職人たちのアトリエを訪ねたり、グルメを楽しんだり、パリっ子の家に招かれて食事をしたりできます。

詳しくは⇒www.meetingthefrench.com

味わい深いパリ

《味わい深いパリ》は、パリのグルメ・ツアーです。本物のパリの生活を楽しみ、市場巡りをして、フランスの食の遺産を体験します。

詳しくは⇒www.succulent-paris.com